

長瀬川宗根、札屋宗根、南宗根、新池宗根

集落部門

村をあげてゆがふう(豊年)を願うふるさとづくり (平成25年度認定)



多良間村は、宮古本島から66.5km離れた離島で、面積は21.91平方km。総人口1,325人うち農家人口は796人である。村の主な産業は農漁業で、主な作物はさとうきび、葉たばこ、かぼちゃ、肉用牛繁殖経営である。

「スツウプナカ」は、全村民参加のまつりである。まつりは成年男性を中心に運営され、多良間島本島には、長瀬川宗根、札屋宗根、南宗根、新池宗根の4つの団体兼祭場が設けられる。各々の祭場には、①老人(ウイピトゥ)座、②幹人(カンジン)座、③舞者(ブシャ)座、④(イム)座、⑤供番(クバン)座の5つの「座」が設けられ、成人男性はいずれかの座に参加し、年齢が上がるごとに座を移動することで、知識・役割を教え合う事で伝統の継承が図られている。女性たちは料理や会場準備等、裏方として働く。平素、御嶽を守っている司たちや、村に貢献のあった来客を料理と神酒でもてなす。このように役割分担をすることで世代を超えて伝統文化の継承が行われている。

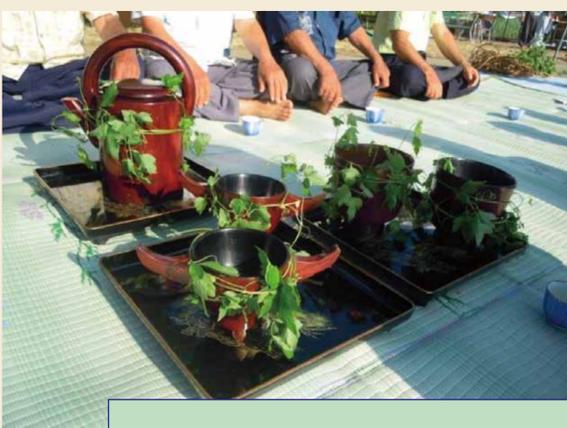
感謝と共に豊年を願うスツウプナカは農漁業が主産業である多良間村においては重要な祭事で、村をあげて豊年(ゆがふう)に感謝し祈る心が脈々と生き、継承されていることから、伝統文化の継承等人々の生活の営みが認められる団体として集落部門に認定された。



神酒を仕込む



スツウプナカ1日目の様子



スツウプナカ2日目の様子

